

## 説教要旨「幸いへの招き」

ルカによる福音書7章18～23節

『つまずく』という言葉は聖書において、信仰に関わる言葉として用いられています。それは神様を信じることができなくなってしまうこと、信仰を失ってしまうことを意味しています。イエス様を自分の救い主と信じ、受け入れ、信頼することができなくなる、というつまずきの危機に、ヨハネは直面しているのです。私たちも、「イエスよ、あなたは本当に私の救い主なのですか。今苦しみ悲しんでいる私に、あなたは何をして下さるのですか」という問いを抱く時、ヨハネと同じように、つまずきの危機に直面しているのです。

イエス様はこのつまずきの深刻さをよく理解しておられます。しかし、このつまずきは、イエス様こそが救い主であることをなんとかして証明して見せることによって乗り越えられるものではありません。また、私はあなたのその苦しみに対してこういう救いを与える、あなたの抱えている問題をこのように解決する、ということを示すことによって乗り越えられるのでもありません。イエス様のみ業、その中心は、貧しい人、苦しみや悲しみ、弱さの中にいる人が、福音を、神様の救いの到来を告げ知らされ、その事実を体験している、そのことをありのままに示すことにしか、このつまずきを乗り越える道はありません。

イエス様は、「わたしにつまずかない人は幸いである」と語りかけておられます。あなたは、私が行なった業によって貧しい人々に福音が告げ知らされているという事実の中に、あなた自身の救いを見るのか、それとも、自分が今具体的に抱えている問題が自分の願うように解決されることにしか神の救いはないと考え、私をあなたの救い主とは認めないのか、という問いです。この問いに対して、自分の問題の解決のみが救いだ、と答えるなら、私たちはイエス様につまずく者です。しかし、イエス様によって実現した事柄の中に自分の救いがあると信じるなら、私たちはつまずきを乗り越えてイエス様の救いにあずかる者となるのです。

(2018・10・07 説教者：稲垣真実)